

## 大学生との取り組み－真の産学連携・モノづくり応援団として－

遠山 浩

筆者は大学という大学側の組織にしながら産学連携というものに疑問を呈してきた。というのも、文科系の学というのは take ばかり考え give を与えるという取引関係になってないことに疑問を感じたのである。取引でないからこれは長続きしないだろうと感じた。

事業者や川崎市にヒアリングしたところ、高津区の町工場経営者は住工混在問題に悩んでいるとわかった。近隣の住民と仲良くしたいという気持ちはあるものの、後からきたものが地域を理解しろというスタンスであった。「地域住民は工場を出て行けという時しかまとまらない。普段から接するのであれば皆さんは団体を作っているんだからそこでやるしかない。そこからアプローチするしかない。」と説いた。それでオープンファクトリーが生まれた。そんなことをして儲かるのかという人が多かったものの、今ではその重要性を理解してみんな楽しんで取り組んでいる。その時に思ったのだが事業者の説明は小難しい専門用語をすぐ使う。住工混在問題への理解を深めてもらうことを目的としているのにこれでは効果が上がらない。そうだ、大学生は町工場の隣に住んでいる家のお兄ちゃんお姉ちゃんにあたるから、彼らが自分の言葉で説明できれば give が成立することになる。町工場の中小企業経営者の考えを学生に吸収させれば take が成立する。市役所の後押しもあって高津ものまちづくり会の会長職に小職がいる。

こうして高津区の町工場と往来を重ねることになるが、都市の町工場が必要とされる理由が明確に分かってきた。その成果は高津区役所で小学校 5 年生向け教材として作成した「高津区ものづくり企業 MAP」<sup>[1]</sup>で発表させてもらっているが、そのエッセンスを紹介したい。

- 日本のものづくりは中小企業の分業で成り立っている。
- 都市部は需要が多様であり、多様な需要に応えるためには、中小企業の存続が必要。そうでなければ汎用品ばかりになってしまう。
- オフィスの内装に金属を使う需要もあるデザイナーやクリエイターとの協業が必要。エレベーターを納期遅れなく設置してほしいという需要もある。

- 都市部で存続している中小企業は技術力があるので、分厚い産業集積が成立している。製造は産業集積に任せて自社は設計開発を特化するというファブレスモデルが成立している。高津区にはそんなファブレス企業・ベンチャー企業のアジトともいえる KSP が立地している。

何を作っているかに関しては「高津区ものづくり企業 MAP」を見てもらうとして、身近な製品づくりに貢献している企業としては、(株)ヒラミヤ、上代工業(株)、(有)相和シボリ工業、(有)岩手電機製作所、三栄工業(株)、(株)昭特制作所、ビルコン(株)、日本理化学工業(株)、(有)アトリエ・ゼロなどがある。このうちヒラミヤはデザイナーと協議をしているとは思えない町工場である。すべての会社が特徴のある技術力を有している。だから短納期要請がくるのだ。発明家・発明企業としては、(株)和興計測、佐々木工機(株)、(株)アステム、(株)伊吹電子、(株)グリーンテクノ、(株)ニコ・ドライブ、(株)浜野エンジニアリングがある。(株)和興計測、佐々木工機(株)、(株)伊吹電子はただの町工場である。ほとんどの会社が KSP には入居していない。高津区は発明家がゴロゴロいる町なのだ。

まちづくりには工業事業者も関係している。それを学生が紙芝居(遠山が原稿を作成。それを元に川崎市役所で絵を作成。それに遠山の話の聞いている学生が川崎フロンターレと協力してセリフを作成。これにより大学教授の堅苦しい表現を避けつつ、大学教育の質を担保するということが達成できている。)を作って紹介している。

オープンファクトリーを通して子どもたちには子ども時代に住んだ地域に誇りを持ってほしいと思っている。高津区はものづくりの町だということを認識してほしい。子どもの時に一時住んだだけかもしれないが、すごいことが行われている町だということ誇りに思ってほしい。オープンファクトリーがそこまで進化することを期待している。

## 第1回 川崎北工業会(久地・宇奈根)オープンファクトリー

何人来るかわからない状況下で臨機応変な対応が求められる。学生はサポート役に徹する。写真は(株)ヒラミヤの様子。



## 第1回 高津ものづくりフェアの様子

分解ボックス：当初組立加工用に作ることを発想したが、川崎フロンターレのアイデアで分解をしてふろん太のフィギュアを救うというアイデアに変わったのが成功。分解タイムを競う（(有)早川製作所のオープンファクトリーのキラーコンテンツになっている）。スイッチをいろいろ触るアイデア（(株)和興計測のオープンファクトリーのキラーコンテンツになっている）やふろん太の下絵だけ用意したプラスチック廃材アートも盛況であった（高津区役所、川崎フロンターレで展示）。



学生による紙芝居も町工場事業者を巻き込んで本格稼働。



撮影 2017年7月1日

## 第1回 下野毛工業協同組合オープンファクトリー

当日は大雪が積雪。でも近隣の方が多数集まった。目論見は成功。



## 参考

[1] 「高津区ものづくり企業 MAP」  
<https://www.city.kawasaki.jp/takatsu/page/0000096439.html>



とおやま・こう  
(専修大学 経済学部 教授)